

第2回 千歳市総合計画審議会 議事録

日 時：令和2年7月28日（火）18時30分から20時30分まで

場 所：千歳市中心街コミュニティセンター

出席者：次のとおり（敬称略）

（委員 32名）

曙 嘉輝、阿部 貞枝、石川 勇人、伊東 ミツ子、岡 昭雄、街道 美恵、鐘下 富一、兼平 尚子、川瀬 正明、荃津 俊爾、國政 平、小林 美樹、斉藤 正志、坂本 孝志、佐久間 裕也、佐藤 貞、芝 敬雄、立田 京平、中村 敬臣、西本 隆史、沼田 常好、野田 政志、浜 一穂、藤澤 宏、藤本 誠司、古林 正司、正木 孝治、向田 健太郎、村上 松夫、山口 満、蓬田 恒春、力示 武文

（市及び事務局 8名）

島倉企画部長、小尾企画部次長、澤田企画課長、横山企画部主幹、森谷まちづくり推進課長、辻企画課主査、西河企画部主査、朝倉企画課主事

（アドバイザー 1名）

株式会社日本コンサルタントグループ 山口 和也

欠席者：次のとおり（敬称略）

（委員 3名）

太田 康裕、佐藤 学、山本 貴之

< 議事内容 >

1 第1回審議会における質問事項について

配布した資料1「第6期総合計画と第7期総合計画の比較～過去・現在・未来～」について、事務局から説明。

2 特別委員会（市議会）の審議状況について

配布した資料2「千歳市第7期総合計画基本構想原案（修正案）（特別委員会 令和2年7月20日開催分）」について、事務局から説明。

3 「第1章 序論」から「第4章 目指す都市像」の審議

<第1章>

配布した資料3「事前質問に対する検討結果」の第1章について、事務局から説明。
質疑応答については、次のとおり。

(委員)

No.4(資源や特性)について、回答はわかりやすいが、順番に読んでいくとわかるように書かれているということなのか。たしかに、この説明を読むとなるほどと思うが、例えば、人材や空港などの資源というように、例として挙げるとよりわかりやすいと思うが、その辺はいかがか。もしかしたら、順番に読んでいくと無理なくわかるということなのか。

(事務局)

今、私の方で説明させていただいたが、基本的には、資源と特性ということをもとめて横並びで書いていこうとしており、資源だけ、特性だけの説明にはならないと考えているので、特に例示については今のところ記載しない方向で考えている。

(委員)

ここで例示はなくても良いが、どこかで、特性と資源についてちゃんと説明されていれば良いのだが、そのようにするのか。

(事務局)

説明したとおり、7ページ、18ページでも千歳市の資源、特性という表現があり、表現を統一したいと考えている。そこに(1)位置・地勢、(2)北海道の一大交通拠点、(3)豊かな自然、(4)多様な企業が立地する工業都市、(5)道内有数の農業生産地帯、(6)陸と空の自衛隊が所在するまち、というように記載しており、ここでは資源と特性の説明にはなっていると思う。

(委員)

特性はそこに記載があるのは分かったが、資源はどこかに記載があるのか。

(事務局)

18ページに書いてある部分が、資源であり特性であるという解釈である。

(委員)

それだと分かりにくいということだと思う。

(委員)

どのようなものを資源とするのか人によって異なると思うので、市として、どのようなものを資源と捉えているかという部分が知りたかったので、タイトルに「資源」という言葉が追記されるのであれば、その修正で問題ない。

(委員)

タイトルを変えるだけでは、資源として捉えきれないかもしれないということで、今お話があったと思う。19ページの用語解説に名水百選は書いてあるが、今、質問に答えている人材や自然を、千歳市としては資源と捉えているという一筆を入れられないの

か。

(事務局)

今のことについて、検討させていただく。おっしゃるとおり、資源についてわかりづらさということがあるので、資源とはどのようなものなのかを表現できるように検討していきたい。

(委員)

この回答欄にも、企業が資源だと書いてあり、260社を超える企業が立地、集積していることが特性だとも書いてある。企業は両方に入っている。それで、あまり明確に記載されていないように感じる。逆に言うと、特性はこういうもので、資源はこうだということ分かるような記載について、検討をお願いしたい。

(事務局)

承知した。

< 第2章 >

配布した資料3「事前質問に対する検討結果」の第2章について、事務局から説明。質疑応答については、次のとおり。

(委員)

検討結果の5ページの1番は、13ページの1 - (2)の1行目ではないように思う。ページ数が合っているのか、内容があっているのか、どちらなのか？

1行目の「社会的課題の解決」と書いてあるのは、12ページの1のところであり、(2)ではないと思う。

(事務局)

13ページというのは、項目で言うと「(2)情報化の進展」で12ページになるが、質問内容の「社会的な課題の解決」は、ちょうど13ページの1行目にあるので、13ページという表現になっている。

(委員)

承知した。

(委員)

質問シート(検討結果)の5ページのNo.2について、本文で「欧米を中心に感染が広がり」というところを、回答としては「全世界に広がりを見せていることから、このような表現で」ということだが、「欧米を中心に感染が広がる」というところは、「世界に広がり」という方が、いいのではないか。

新型コロナウイルス感染症ウイルス感染症については、欧米だけではなく、アジアやオセアニアでも広がっており、回答も「全世界に広がりを見せている」と表現されているので、「全世界を中心に感染が広がり」という文言に変えた方がいいと思う。

(事務局)

検討結果については「全世界に」と記載しているが、実際には、まず欧米を中心に感染が広がったと認識しており、例えば「欧米を中心に世界的に広がった」というような

表現はいかがか。

(委員)

新型コロナウイルス感染症ウイルス感染症については、記載した時点と現在と、それと最後にいつ見直しができるのかわからないが、来年の1～3月で随分状況が変わっている可能性がある。例えば13ページでは「全世界に400万人以上が感染し」となっているが、今はもう一千万人以上となっており、もしかしたら、来年はまた大分桁が変わっている可能性もある。たしかに順序としては、中国から始まって欧米に行き、今は南アメリカなど全世界に広がっているが、ここは、順番に書くのであれば欧米も出てくると思うがいかがか。

(事務局)

感染者の数については、今おっしゃられたとおり、日々刻々変わっている。今年の11月くらいまでの最新の状況ということで、数字は入れていきたいと考えている。

(委員)

新型コロナウイルス感染症については、最新且つ後から読んであまりおかしくないような、表現は難しいと思うが、そこは知恵を絞って書いていただくということにさせていただきたい。

(事務局)

先ほどご質問のあった新型コロナウイルス感染症の拡大の話だが、新型コロナウイルス感染症ウイルス感染症の拡大については、令和元年12月に中国で確認されたところからスタートし、その後欧米を中心に感染が広がって、3行目には世界的なパンデミック、大流行になったということで、拡大の変遷について時系列に書いている表現にはなっている。内容としてはこれで良いのではないかと考えているが、いかがか。数字については、先ほど言ったとおり、12月に議決をいただくような流れになっているので、それまでの直近の数字で修正は加えていきたいと考えている。

(委員)

状況は刻一刻と変わっているので、どこから読んでもおかしくないようにさせていただきたい。

< 第3章 >

配布した資料3「事前質問に対する検討結果」の第3章について、事務局から説明。質疑応答については、次のとおり。

(委員)

9ページの質問の4番について、基本構想原案原案の29ページで、関係人口とは何かということで、ここに書かれていることは理解できるが、これも用語解説が何か入れられないのか。関係人口はほとんどの人がわからないと思う。私も良くわからなかった。

要するに一言で言うと、今現在、何らかの関わりのある人ではなくて、過去にかかわりがある、あるいは、何らかの関係のある方ということか。

(担当課)

基本構想原案原案の31ページの下に、用語解説として、関係人口について解説している。

本日説明した第3章の修正部分に関しても、資料2の25ページの印の5番でも関係人口と記載しているが、この内容だとわかりにくいということか。

(委員)

先ほどの説明で、観光でも定住でもない、定住でもないというのはよくわかるが、観光で来たことのある人は関係人口ということか。観光人口という言葉はあるのか。

(担当課)

観光人口が観光客で、観光客の方々を交流人口と表現しており、今現在来ていただいている方々が交流人口である。例えば、過去に来ていただいた方が関係人口だと定義としては表現している。

(委員)

「定住でもない」というのは、今、定住ではないということか。

(担当課)

そうである。

(委員)

過去に住んでいた人は、関係人口となるのか。

(担当課)

そうである。

(委員)

今年観光に来た人は関係人口とは言わず、交流人口になるということか。

(担当課)

統計のとりかたにもよると思うが、最近来ていただいた方は交流人口、5年前に来ていただいた方で、また来たいという方は関係人口という捉え方をしている。

ちょっとわかりにくいということもあるので、本日説明した検討結果の中で例示もしているのですが、このような内容も含めて、よりわかりやすい表現で修正を検討したいと思う。

(委員)

もう少し、1行くらい何か記載があったらいいと思う。

(担当課)

検討する。

<第4章>

配布した資料3「事前質問に対する検討結果」の第4章について、事務局から説明。質疑応答については、次のとおり。

(委員)

37ページに関するNo.9の「市街地」についての質問だが、この回答で言うと、都市

計画（区域）が、市街化区域と市街化調整区域があり、行政区域では、都市計画区域のほか、支笏湖を含む国立公園区域、森林地域を含む都市計画区域外もあることから、市街化区域及びその周辺を含む都市地域云々となっていて、市街地という言葉が出てこないが、本文にある市街地というのはどのようなものか。回答にある都市計画でも行政区域でも良いが、どれに相当するのか。

（担当課）

質問にあった市街地については、検討結果で回答している都市地域、都市計画でいう市街化区域の部分を市街地と言っている。

（委員）

市街地には、市街化調整区域は入らないということか。

（担当課）

そうである。

（委員）

低利用地や未利用地は、それも市街化区域の低利用地や未利用地で、市街地を市街化区域とするということか。ここにある説明が、市街化区域と言わない理由か。

（担当課）

そうである。少しわかりづらいが、都市地域の中には、都市計画でいう市街化区域及びその周辺も含めて「都市地域」というくくりの中で言っているので、その中でも市街地については市街化区域を想定しているということになる。

（委員）

No.10 について、「低未利用地」という言葉は、千歳市の中で一般的に使われているということか。

（担当課）

「低未利用地」については、そのように考えている。

（委員）

日本語的には、「低未利用地」というと、「未利用地」のなかに高い・低いがあるように感じてしまうが、これは「低未利用地」ということで通用しているということに理解した。

（委員）

検討結果 13 ページの No.9 の検討結果で、「市街化区域への編入の検討」について、主語が「市街化調整区域」になりますと書いてあるが、これは、本文の主語を取り替えるという意味で合っているか。この文章だと多分、「住宅系市街地については、市街化区域への編入を検討します」と読めるような気がするが、この部分の説明をもう一度お願いします。

（担当課）

今ご質問いただいた基本構想原案原案 37 ページの「都市地域」の 2 つ目について、市街化区域への編入の検討については、市街化整備の見通しが確実にされた区域について、市街化調整区域から市街化区域への編入を検討しますという文章になる。

(委員)

それでは、このままの文章で、意味が通っているということか。

(担当課)

今のご質問は、「住宅系市街地については」という主語を「市街化調整区域」に改めるとい質問でよろしいか。

(委員)

そうである。

(担当課)

それについては、「住宅系市街地については」という主語はそのままになり、「市街地整備の見通しが確実にになった区域については、市街化調整区域から市街化区域への編入を検討する」という内容に改めたい。

(委員)

承知した。

(委員)

「市街地整備の見通しが確実にになった区域について～」というのを、「市街地整備の見通しが確実にになった市街化調整区域について、市街化区域への編入を検討します」というと、おかしいか。

(担当課)

いまご提案いただいた文章で、検討する。

(委員)

素人にはなかなか分かりにくいと思う。

行政区域内に、市街化区域とその周辺を含む都市地域だから、行政区域内には市街化調整区域も含めているということか。

(担当課)

そうである。なかなか区分けが難しいところもあるので、わかりやすい図面などを次回用意させていただきたいと思う。

(委員)

一般市民が理解しやすい図面にしていきたいと思う。

No.12 について、大きな項目が「都市地域」となっており、その「都市地域」の中で、「都市的土地利用の可能性」というのが、日本語としては、都市的な土地利用をする所が都市地域ではないかと思ったが、そういうことではないのか。

「都市地域」という名前がついているということは、当然、都市的な土地利用が今されていなくても、可能性は最初からあるのだろうと思ったがいかがか。

(担当課)

こちらの「都市地域」については、さきほどの市街化区域及びその周辺を含めて「都市地域」という位置づけをしているので、市街化区域周辺の市街化調整区域になる部分についても、将来的に市街化区域への編入が想定される所はこういう位置づけになっている。

(委員)

都市的土地利用の可能性のある所が、市街化区域というわけではないのか。

(担当課)

現状は、市街化調整区域になっている所もある。

(委員)

都市的土地利用の可能性のある地域というのは、市街化調整区域のことを指している
と理解すれば良いのか。

市街化区域と市街化調整区域というのは我々もよく聞く言葉だが、この辺は、前の所
で少しわかりやすい説明を考えてみるということだったので、この辺も併せてわかりや
すい表現があれば検討していただきたいと思う。

(担当課)

検討させていただく。

<全体を通して>

質疑応答については、次のとおり。

(委員)

第4章の「目指す都市像」で、「4 土地利用の基本方針」(1)土地利用の基本方向3
つ目で、「将来の人口減少に備えて～」というのは、見込まれているのでいいと思うが、
それを土地利用以外のことであてはめて、何か将来の人口減少に向けて、この第7期計
画のなかで何か入れ込んでいるのか。

土地のところだけで将来の人口減少に備えているというのは、それを土地に合わせる
のか、あるいは今考えているまちづくりの方向で人口減少については記載しないという
ことなのか、どちらを検討されるのか聞きたい。

(事務局)

第7期総合計画は、人口増加を持続させていくこととしており、土地で話したとおり、
土地の有効活用などのほか広範に出てくる。

例えば基本構想原案原案126ページの基本目標「シティセールスを戦略的に推進しま
す」に具体的に記載しているが、このようなところでも、人を呼び込もうということで、
積極的に人口を増やしていこうという考え方のもと、こういう戦略を展開していくとい
うことも書いているので、当然土地だけではなくて、人口増に関する取組については、
色々なところに盛り込みたいということで、このように記載している。

また、基本構想原案119ページ、展開方針8の「未来につなげる強靱な水道・下水道
づくりを推進」の基本方向の一番上の のところで、「将来的な人口減少などに伴う水
量の変動を見据え～」ということも記載しており、先ほど言ったとおり、人口増に対す
る施策もあるが、人口減少に対する危惧、それに対する将来的なインフラ整備なども当
然盛り込んでいくということを考えている。

(事務局)

補足させていただく。基本構想原案原案37ページの「土地利用の基本方針」のなか

に、 に「将来の人口減少社会に備えて～」という表現がある。基本的に、土地利用、都市計画をつくるうえで、20年、30年という長いスパンで考えている。

また、先ほどの水道や下水道というインフラ整備についても長いスパンで考えているが、10年間という総合計画の計画期間を超えた、もっと将来のことを見据えた記述として書いている。

ただ、10年間というこの総合計画の計画期間では、人口を、千歳市としては伸ばしていきたい考えである。実際に、現在は年間4～500人、人口が伸びている。先日、98,000人に到達したので、10年間で2,000人増やして10万人にしたいという思いがあり、基本的にはシティセールスを行いながら、この総合計画全体のなかで人口増加を継続し、活力あふれるまちづくりをめざしていく。ただ、分野的に、土地利用だったり、インフラ的な整備だったりして、人口は10万人をめざして増加させる政策をこれから総合計画で打っていくが、さらにその先については、将来的には人口が減少していくのは千歳市においても間違いないので、そういったことを見据えた土地利用を今から考えるべきではないかという記述になっている。総合計画自体は人口増加を謳いながら、一部で減少という表現が入ってるが、10年間のなかでの増加と、その先を見据えた表現ということで、増加と減少が混じっている状況だが、そのような意味合いで今つくっているもので、ご理解いただければと思う。

(委員)

10年間の計画という考え方、それは土地利用と頭を揃えていただければ結構だし、当然、10年以降のことも考えないわけにはいかないもので、第4章ではトーンを合わせていただいて、実施計画とかでしっかり表現していくといいのかなと感じた。おおむね理解した。

(委員)

第4章の「目指す都市像」のところだが、1に「基本理念」があり、2に「将来都市像」があるが、その次に「国土強靱化」と「土地利用」についてだけ都市像に含まれているのは何故なのか。文言ということだけでなく、ほかに何か、例えば今の新型コロナウイルス感染症のような色々なものがあるなかで、第4章に、「国土強靱化」と「土地利用」が含まれている理由を教えてください。

(事務局)

おっしゃるとおり、まず1番に基本理念があり、2番に将来都市像がある。3番が国土強靱化で4番が土地利用だが、国土強靱化については、国土交通省から、このような計画を地域計画としてつくるようにという指示がある。

今現在、地域防災計画という計画もあるが、国土強靱化というのは、災害が起きる前の心構えとして、どんな災害が起きても、行政や市民活動、みなさんの生活が維持できるように日頃から考え、備えをしておく必要があることを言っており、こういった計画をつくる予定ではあるが、この計画については、総合計画と横並びで位置づけることとなっている。

このようなことから、第7期総合計画の肝である第4章に、横並びとして加えたとい

うことが1つある。

もう1つとして、4番の「土地利用の基本方針」については、当然人口を増やしていくということで、都市の人口フレームということを考えた時に、土地利用の考え方が非常に重要な要素になるので、そのような意味では、第4章は計画のなかで上位に位置づけられる章であるが、そのなかで目標人口を目指すため、土地の利用というのは当然考えなくてはならないので加えたという経緯がある。

(委員)

説明を聞くとよくわかるが、基本構想原案だけを見るとよく分からなかった。

(委員)

確認をさせていただきたいが、第7期総合計画のなかで、千歳市の将来の人口・10万都市を目指すという点では、第3章にある交流人口並びに関係人口の2つを利用して人口増を図るということはよく理解できるが、それに基づいて人口が増えた場合のハードとしての土地利用、2,000人から3,000人が10万都市になるには必要なわけだから、都市計画上の建物を建築するために、今の調整区域を市街化区域に編入していくということによろしいか。

(担当課)

今後人口増加をめざしていくにあたり、基本的には既存市街地の低未利用地などを有効活用して人口を貼り付けていくという基本的な考え方があるが、それでも宅地が足りない場合には、必要に応じて拡大も検討していきたいと考えている。

<その他>

配布した資料3「事前質問に対する検討結果」のその他について、事務局から説明。質疑応答については、次のとおり。

(委員)

市民まちづくりアンケートについて、統計学的には383票あれば有効ということで、これは、アンケートを出した3,000に対しての数なのか。それと、カッコ書きで信頼度が95%、目標精度5%の場合と書かれているが、今回はこれに達しているということによろしいのか。

(事務局)

383票というのが、今回3,000人を対象として行ったということで、何千票あっても、基本的には383票というのが統計学的には有効ということである。3,000名いなくても、一定数の母集団があれば、383というのは統計学的には有効ということである。それから、信頼度95%、目標精度5%というのも、今回の票数で達成しているということである。

補足させていただく。今、配布数3,000と言ったが、母集団としては約8万人という人数、ほぼ市民ということで、18歳以上の市民を対象に行っているの、この8万人に対して、統計学的には383票ということである。

4 事務連絡

- ・第1章から第4章について、追加で質問したいことがあれば、次回8月4日(火)の会議の際にお答えするので検討いただきたい(事前提出は不要)。

5 次回開催

日時：8月4日(火) 18時30分から

会場：千歳市中心街コミュニティセンター